

# 生徒の心身の健康課題解決に果たす養護教諭の役割の検討

— A中学校の「心と体の健康調査」を通して —

瀬口 久美代<sup>\*1</sup>・松田 芳子<sup>\*2</sup>

An Examination of the Role of Yogo Teacher in Providing  
Physical and Mental Health Solutions to Students  
— Through Investigation of A Junior High School's Physical and Mental Health —

Kumiyo SEGUCHI and Yoshiko MATSUDA

キーワード：養護教諭，中核的役割，コーディネーター，チーム学校

## I はじめに

近年，多様化する社会の中で，子どもたちの心身の健康課題が複雑化・深刻化してきており，それら健康課題に対する学校現場での対応の充実が求められている。

平成20年の中央教育審議会答申<sup>1)</sup>をうけ平成21年に学校保健安全法が施行された。養護教諭には，より一層学校保健活動推進の中核的役割や，学校内外の関係者との連携を推進するコーディネーターとしての役割を担うことが提言されている。また，平成27年12月には3つの中教審答申が示された。「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」<sup>2)</sup>「新しい時代の地方創生に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」<sup>3)</sup>「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」<sup>4)</sup>である。

これらは，これからの学校の在り方に問うたもので，学校だけで児童生徒の学力・生きる力・豊かな心等々今までの提言を支えるのではなく，学校を核として広く地域社会で支えること，また，学校は校内における活動が充実していくように，それぞれが力を発揮する，等々の提言がされた。

特に「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」では，養護教諭は，「養護教諭」としてその専門職としての力を発揮することを求められている。

三木ら<sup>5)</sup>によると，『「必要とされている」「期待されている」と様々な文献や研修で発言されても子どもにつながる実践でなければ意味がない。』と述べ

ている。

ならば，筆者が勤務した学校での実践を振り返り，このような「養護教諭の役割」を，養護教諭の学校保健活動の実践から具体的に示したいと考えた。そこで，筆者が，平成21年度から平成23年度まで勤務したA中学校において生徒の健康課題解決に向けて実践してきた取り組みを基に，平成24年度の1年間の取り組みを改めて検証し「養護教諭の役割」を明らかにすることとした。

また，A中学校を含めた近隣の中学校6校の養護教諭の学校保健活動の実践を分析することにより，生徒の心身の健康課題解決に果たす養護教諭の役割について明らかにすることとした。

## II 研究方法

(研究1) K県K市A中学校における取り組みの検討

### 1. 保健室来室状況の把握と分析

生徒の保健室来室時の問診票の記録をもとに，保健室来室状況の分析を行った。

### 2. 心と体の健康調査

#### 1) 調査対象

全校生徒930名，内訳は，1年303名 2年334名 3年293名である。

#### 2) 調査時期

平成24年6月と平成25年3月の2回実施した。

#### 3) 調査方法

記名による選択式と自由記述式の質問紙調査を実施した。

#### 4) 調査内容

「心と体」に関すること，「携帯電話使用状況について」の大きく2つの内容で構成した。内容

\*1 熊本大学教育学部養護教育

\*2 熊本大学教育学部養護教育

の設定については、財団法人熊本県学校保健会の「平成20年度児童生徒の心と体の健康づくり推進事業報告書」<sup>6)</sup>を参考に作成した。「携帯電話の使用について」は、生徒の実態に合わせて調査項目を作成した。また、1年生と2年生については、健康教育のテーマに沿った実態把握のために、調査項目を一部変更して調査した。

5) 分析方法

エクセル統計を用い、男女差、学年差、調査時期による変容、項目間の関連については、 $x^2$ 検定により、有意水準5%をもって有意差があるものとした。

3. 「心と体の健康調査」結果を基にした情報発信の取り組み

A中学校において「心と体の健康調査」結果を基にして、種々の情報発信を行った取り組みを分析した。

(研究2) K県K市東部地区中学校における取り組みの検討

1. 心と体の健康調査

1) 調査対象及び調査時期

対象：K市東部地区の中学校6校の1年～3年  
実施時期：平成24年6月～7月

2) 調査内容

A中学校の調査内容とほぼ同様であるが、各学校の実態に応じて、質問項目を設定した。

3) 実施方法

各学校の状況に応じて実施し、各校の養護教諭により集計した。

2. 各校における「心と体の健康調査」結果の活用に関する調査

1) 調査対象及び調査時期

(1)対象：K市東部地区の中学校6校養護教諭  
(2)時期：平成25年2月

2) 調査内容

(1)基本調査項目

在籍数、学級数、経験年数、年齢、現在校勤務年数、心と体の健康調査の実施時期、実施対象

(2)「心と体の健康調査」の結果分析に関する項目

①健康課題が明確になったか、②把握した健康課題の内容、③健康課題と調査結果は一致したか、④実施した情報発信の機会・内容・対象について⑤関係者による評価(感想等)：管理職、教職員、参加者(生徒)、保健委員(保健委員が発表を行った場合)

3) 実施方法

K市東部地区中学校の研究会に参加し、調査目的・内容・結果の取り扱い等について説明を行い、協力の同意を得、郵送にて回収した。

3. 各校の取り組みから抽出した活動実施の記録の分析

1) 調査対象及び調査時期

(1)対象

A中学校の養護教諭及び近隣中学校5校の養護教諭 6名(含複数配置校2校)

(2)時期

平成25年4月～6月

2) 調査内容

三木らが開発した「活動実施の記録」を参考にした記録用紙<sup>7)</sup>を用いた。内容は、取り組みのテーマ、取り組みのきっかけ、ねらい、対象、指導期間・時間・場所、指導者、活動内容、連携(学級担任・学校医・学校歯科医・学校薬剤師・その他)、保護者への助言、活動のネットワーク、反省と評価・全体の感想である。

3) 実施方法

K市東部地区中学校の研究会に参加し、調査目的・内容・結果の取り扱い等について説明を行い、協力の同意を得、郵送にて回収した。

Ⅲ 結果及び考察

1. A中学校における取り組みより

1) 保健室来室状況

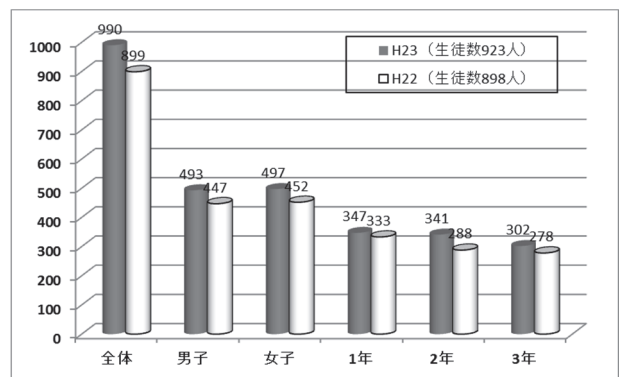


図1 保健室来室状況

学年では、1年が多く次いで2年、3年の順であった。来室理由の内科的なものは、頭痛、腹痛、きつい・だるいが上位を占めていた。問診から、生活習慣が関係していると推察される生徒が多くみられた(図1)。

2) 心と体の健康調査

平成24年6月の調査では、心と体に関する項目の中で、主なものとして、朝食について、7、8割は毎日食べているが、2年生は3学年の中でその割合が低い傾向であった。就寝時刻は、学年が上がる毎に、12時以降に就寝している生徒が増加していた。それに伴い、睡眠時間も短くなっていた。健康に気をつけて生活しているかどうかについて、8割の生徒は、気をつけている、だいたい気をつけていると答えていた。

携帯電話使用状況に関する項目から、所持率は学年が上がる毎に増加しており、男子より女子の所持率が多かった。所持した時期について、小学生の時期からの生徒が、多くなっていることがわかった。年々、携帯電話を持つ時期が若年化している傾向があるといえる。

また、携帯電話所持と心と体の健康に関する項目との関連について、各学年とも所持している生徒が、朝食抜きの生徒、睡眠時間が6時間以下の生徒がわずかだが多いことがわかった。使用時間との関連では、2時間以上使用している生徒が、朝食抜きが多く、12時以降に就寝する生徒も多いことがわかった。(表1)

2年は、使用時間が短い生徒が、自尊感情が高い傾向にあり、学校に行きたくないと思う生徒が、

使用時間が長い生徒に多かった。3年の6月の調査では、使用時間が長い生徒が、午前中の気分が良くないと答えていた割合が高かった (P<0.01)。

就寝時刻と朝食摂取、午前中の気分との関連では、朝食摂取率は、12時前に就寝した生徒が12時以降に就寝した生徒より多く、午前中の気分も良いと答えた生徒が多かった。各学年とも生活習慣、特に睡眠時間に課題があり、携帯電話の使用時間と生活習慣は、大いに関連があることがわかった。

平成25年3月の調査では、毎日朝食を食べる生徒がわずかだが増加していた。就寝時刻については、遅くなっている傾向であった。携帯電話の使用状況については、各学年、男女とも増加し、3年の女子は7割の所持率だった。

3) 「心と体の健康調査」結果を基にした情報発信の取り組み

A中学校養護教諭は、調査結果を保健だよりに保健指導の資料として活用し、また、学校保健委員会の議題提案とした。個別には、保健室来室時の健康相談活動の資料として活用した。学校全体に情報発信したことで、学年では、特別活動での健康教育の実施につながり、文化祭での発表や総合的な学習の時間での健康教育の実施において「心と体の健康調査」の結果を基に、内容を企画し実施した。3年生の取り組みの例は以下の通りである。

表1 携帯使用時間と他の項目との関連 (3年全体 H24年6月)

項目	カテゴリー	携帯使用時間			有意差
		30分 (n=46)	1~2時間 (n=41)	2時間以上 (n=45)	
1 朝ご飯を食べてるか	毎日食べる (n=105)	39 (84.8)	33 (80.5)	33 (73.3)	n. s.
	時々食べないことがある (n=20)	6 (13.0)	7 (17.1)	7 (15.6)	
	ほとんど食べない (n=7)	1 (2.2)	1 (2.4)	5 (11.1)	
2 就寝時間	12時より前 (n=63)	25 (54.3)	20 (48.8)	18 (40.0)	n. s.
	12時以降 (n=69)	21 (45.7)	21 (51.2)	27 (60.0)	
3 睡眠時間	6時間以下 (n=56)	20 (43.5)	16 (39.0)	20 (44.4)	*
	7~8時間 (n=73)	26 (56.5)	25 (61.0)	22 (48.9)	
	9時間以上 (n=3)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (6.7)	
4 午前中の気分	とてもよい (n=16)	8 (17.4)	4 (9.8)	4 (8.9)	**
	まあまあ (n=87)	27 (58.7)	30 (73.2)	30 (66.7)	
	あまりよくない (n=29)	11 (23.9)	7 (17.1)	11 (24.4)	
5 自分が好きか	好き (n=18)	12 (26.1)	4 (9.8)	2 (4.4)	*
	好きでない (n=113)	33 (71.7)	37 (90.2)	43 (95.6)	
6 学校は楽しいか	楽しい (n=73)	24 (52.2)	27 (65.9)	22 (48.9)	n. s.
	楽しくない (n=59)	22 (47.8)	14 (34.1)	23 (51.1)	
7 学校に行きたくないと思うことがあるか	ある (n=94)	31 (67.4)	26 (63.4)	37 (82.2)	*
	ない (n=38)	15 (32.6)	15 (36.6)	8 (17.8)	
8 クラス内の友人との関係	よく話しをする (n=117)	41 (89.1)	38 (92.7)	38 (84.4)	n. s.
	あまり、ほとんど話さない (n=15)	5 (10.9)	3 (7.3)	7 (15.6)	
9 相談できる人がいるか	いる (n=108)	39 (84.8)	34 (82.9)	36 (80.0)	n. s.
	いない (n=22)	6 (13.0)	7 (17.1)	9 (20.0)	
10 健康的な生活を心がけているか	よく、少しは心がけている (n=102)	35 (76.1)	37 (90.2)	30 (66.7)	*
	あまり心がけていない (n=30)	11 (23.9)	4 (9.8)	15 (33.3)	

χ<sup>2</sup>検定 \*p<0.05 \*\*p<0.01

【3年生対象「健康教室」の実施】

- ①期日：平成24年7月18日(水) 14：00～16：00
- ②参加者：3年生全員293名・3学年職員他15名  
K県大学（サイバー対策防犯ボランティア）5名
- ③内容：a.生徒保健委員の発表「心と体の健康調査」結果から  
b.講話：「心と体を守るメディアの使い方」  
講師：K県警生活環境課サイバー防犯対策室室長  
c.学級指導  
d.感想の把握：生徒全員，職員，養護教諭

全学年とも，保健委員の生徒が「心と体の健康調査」結果について実態の分析をし発表した。保健委員の生徒が発表したことで，他の生徒に内容が良く伝わっていることがわかった。また，発表した保健委員自身が，調査結果をきちんと受け止め，自分の生活を振り返ることの大切さを感じていることがわかった。他の職員からも，健康教育の重要性についての感想があった。

調査結果をデータベース化したことで，管理職は学校だよりに掲載，学年主任は学年だよりに掲載，担任による保健指導，学級指導として活用され，地域での非行防止ネットワーク会議等における，地域での会合の提案材料となった。

2. K県K市東部地区中学校における取り組みより

K市東部地区中学校6校の養護教諭に「心と体の健康調査」結果の活用に関する調査を実施した。さらに，6校の養護教諭に，1年間に実施した健康教育から一つ抽出して，「活動実施の記録」に記入したものを分析した。

養護教諭は，「心と体の健康調査」を実施し各校の健康課題の分析と把握を行い，学級指導，保健学習，保健指導，学校保健委員会，生徒保健委員会，健康相談等に活用していることがわかった。各校の健康課題とその取り組みは，表2の通りである。

各校の「活動実施の記録」を分析したところ，「心と体の健康調査」を実施したことにより健康課題を整理し，健康教育のテーマを設定していることがわかった。図2は，A校の健康課題解決の流れを示したものである。同様の流れで，各校とも生徒の健康課題解決に向けて取り組んでいた。

図3は，健康課題の情報発信と各組織への広がり示したものである。養護教諭は校務分掌における各組織での場を活用し，資料提供を行い，校内での協力を得て，学校保健活動を推進していることがわ

かった。具体的には，生徒保健委員会においての指導，学級担任が行う個別指導や学級活動へのサポート等を行っていた。

また，保健行事等の内容の企画において，学校内外の保健関係者及び関係機関との連携を行い，指導の時間の設定，連携する相手等の連絡調整を実施していることがわかった。学級担任，学校医，保健師等との連携をコーディネートし，内容に応じて養護教諭自ら指導を行い，また学級担任と連携して全学年の学級指導に関わっていることがわかった。

そして，学校行事や学年行事での保護者会，保健だより等を活用し，保護者への啓発を行い，地域での会合等にも，資料提供を行い，直接養護教諭が参加することにより，情報発信をしていた。調査結果は，家庭科，技術科，保健等の教科の資料としても活用されていた。

表2 各校の健康課題と取り組み

	健康課題	取り組み
A校	携帯電話の長時間使用の影響で、体調不良や心理的に不安定な生徒が増えている。	保健だより、学校だより、学級だより、家庭教育学級、学校保健委員会、生徒保健委員会、地域の会議等での提起、健康教育講話、学校医との連携、小学校との連携等
B校	就寝時刻が遅く、十分な睡眠が取れておらず、学校生活にも悪影響を及ぼしている。	保健だより、学校だより、学級だより、学校保健委員会、生徒保健委員会、子育てネットワーク会議での提起、健康学習会、子育ての集い、文化発表会等
C・D校	朝食の摂取状況が悪く、朝食が多い。間食が多い。目標が持てない生徒が多い。	保健だより、学級だより、学校保健委員会、家庭教育学級、学校医との連携、保健師との連携によるフォーラム、SCとの連携、担任の学級指導、教科での指導等
E校	携帯電話の長時間使用の影響で、体調不良や心理的に不安定な生徒が増えている。自尊感情とコミュニケーション能力の低下	保健だより、教科（社会科・技術科との連携）短学活の実施（特活部との連携）、学級だより、学年部との連携等
F校	自尊感情が低く、悩みがあっても相談しない。コミュニケーションが苦手	保健だより、学校だより、学校保健委員会、学年、学級指導、地域の諸会議、学校医との連携保護者会（各学校行事事前指導）等

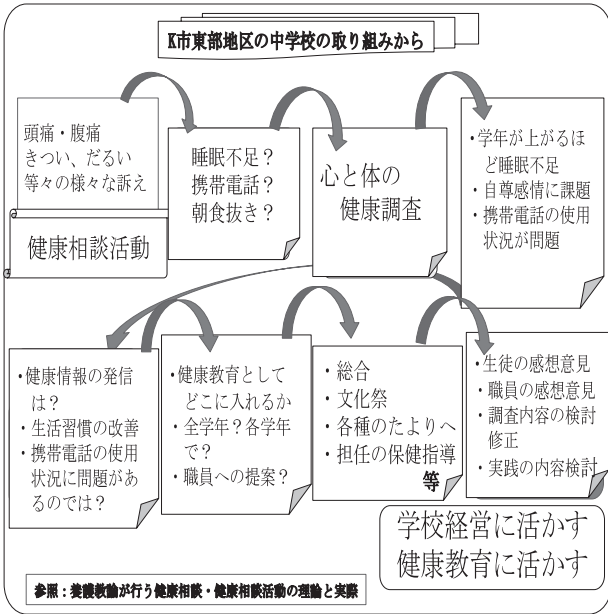


図2 健康課題解決の流れ

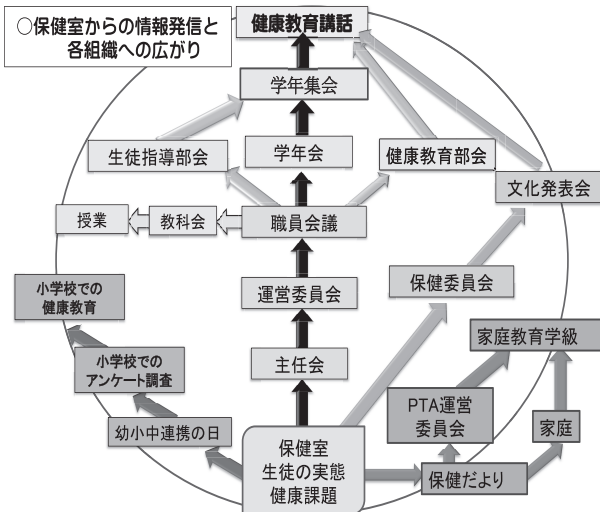


図3 保健室からの情報発信と各組織への広がり

#### IV まとめ

平成20年の中央教育審議会答申をうけ平成21年に学校保健安全法が施行され、養護教諭には、より一層学校保健活動推進の中核的役割や、学校内外の関係者との連携を推進するコーディネーターとしての役割を担うことが提言されている。この各種答申等で求められている「養護教諭の役割」を、養護教諭の学校保健活動の実践から具体的に捉えることを目的とし検討してきた。

K県K市A中学校の取り組みと、近隣の中学校5校の養護教諭が実施した「心と体の健康調査」を基に、生徒の心身の健康課題解決のために各校が取り組んだ、平成24年度の学校保健活動の実践を分析す

ることにより、検討を行った。

本研究より、生徒の心身の健康課題解決に果たす養護教諭の役割について、以下のことが把握された。

1. 保健室の健康情報を、健康教育の場へ提案していくために、保健室の来室状況や個への対応から、健康課題を捉えていた。
2. 「心と体の健康調査」を実施することにより、全校生徒の心身の健康課題を明確にして、健康情報を学校内外の関係者・関係機関（生徒、教職員、保護者、学校医、地域関係者・関係機関等）に発信していた。更に、学校教育活動の種々の機会や場を活用し、生徒の心身の健康課題解決に向けた取り組みを行う健康課題解決の流れを導くことができた。
3. 生徒の心身の健康課題解決の取り組みの中で、養護教諭は、学校内外の関係者・関係機関との連絡・調整を行い、連携をするコーディネーターの役割を果たしていた。
4. 生徒の心身の健康課題解決にむけて、養護教諭は学校保健活動のリーダーシップをとり、計画・立案・調整・実施・評価を行い、学校保健活動の推進にあたり中核的役割を果たしていた。これらのことから、養護教諭は、生徒の心身の健康課題解決に向けて、実態把握と分析を行い、その健康情報を発信し学校内外の関係機関、関係者と連携をするコーディネーターの役割を果たし、学校保健活動の中核的役割を担っていることを検証することができた。

#### V 今後の課題

1. 調査対象をK市全体の中学校と養護教諭、また小学校、高等学校等の養護教諭に広げることで、新たな検証ができるものとする。
2. 対象の養護教諭の経験年数、現任校での勤務年数で何らかの違いがあるのかどうかについて検討することで、更に検証結果の精度が高くなると考える。
3. 「健康調査」を軸にして、健康教育を推進していく場合は、生徒を取り巻く社会の実態や生活環境等も更に考慮し、調査項目の内容について検討を行い、精選していく必要がある。
4. 小学校6年間、中学校3年間、高等学校3年間と健康教育の時間を貴重な時間として捉え、各学校間のつながりも考慮し、指導内容の検討を行うことが必要である。
5. 各校の養護教諭がコーディネートし、実践した

内容について、更に集約し詳細に分析することで、チーム学校における養護教諭の役割が、さらに明確になると考える。

## VI 謝 辞

本研究を進めるにあたり、調査にご協力いただきましたA中学校の全校生徒のみなさんと全クラスの担任の先生方はじめ全職員の先生方、そして、K市中学校東部ブロックの養護教諭の先生方に感謝申し上げます。

### 【引用・参考文献】

- 1) 平成20年度中央教育審議会答申：子どもの心身の健康を守り、安全、安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策として（平成20年1月17日）
- 2) 「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」文部科学省 平成27年12月21日 中央教育審議会答申
- 3) 「新しい時代の地方創生に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の改善方策について」文部科学省 平成27年12月21日 中央教育審議会答申
- 4) 「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」文部科学省 平成27年12月21日 中央教育審議会答申
- 5) 三木 とみ子：学校保健活動に果たす養護教諭の職務と役割，学校保健研究，巻頭言，2013，vol55，No.3
- 6) 児童生徒の心と体の健康づくり推進事業報告書：財団法人熊本県学校保健会，2009
- 7) 三木 とみ子・徳山 美智子：第6章健康相談・健康相談活動からつなぐ保健指導（法第9条）の基本と進め方，養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際，ぎょうせい，2013